

ベトナムでの協力隊活動

永井 亜紀子

(17-1, ベトナム, 青少年活動, 江戸川区立一之江第二小学校)

それでは、私の協力隊の活動を発表させていただきます。先ほどの先生のようにあまり端的にまとめていませんのでちょっとまとまりがつかなくなりそうなんですけれども、よろしくお願いします。

ちなみにこの写真はベトナムの農村の風景です。でははじめにベトナムといって私が事前に抱いていたイメージというか知っていたことを皆さんも思い浮かべていただきたいんですけども、私が思い浮かべていたことは、以上の3つがベトナムへ行く前にベトナムに行ったらこういうことかなと思っていたことがこの3つでした。それから、もうちょっと基礎的なベトナムの情報について言いますと、正式な国名はベトナム社会主義共和国という社会主義の国です。首都は上の方にありますハノイになります。人口は約8411万人ほどです。民族の構成は、1番多いのはキン族という民族で先ほどのアオザイなんかを着る民族もキン族の人たちです。そのほか53種類の少数民族も住んでいます。面積は日本の90%ほどとなっています。地形は縦に長く、日本のような地形に似ているのではないかと思います。私の任地は首都にありました、北部にありますハノイというところが任地でした。それでは配属先なんですけど、配属先はハノイ市人民委員会という、人民委員会とは地方における行政の機関のことで、いろいろな種類があるんですけども、そこに配属されました。その名称がチルドレンズパレスというところで、日本語にしますと児童王宮というふうに訳されていましたが、そういった子供がたくさん活動する場所に配属になりました。

それでは、そのチルドレンズパレスという施設の紹介をしたいと思います。ちょっと長いんですけども、だいたい年齢は5歳から15歳くらいの子どもたちが芸術やスポーツなどさまざまな課外活動の機会を提供している施設。また、いろんな催し物や諸外国の子どもたちとの交流の窓口となっていて、ここの子どもたちが近隣の国に行って、アジア諸国に行って交流したりとかいうことも行っていました。なぜこういう施設があるかというと、ベトナムの学校では日本の学校のようにクラブ活動がないのでこの機関がその役割を果たしているということで、ハノイだけでなくもどこの県に行ってもだいたい小さいながらもこういったものがベトナムにはありました。私が勤めていたハノイのチルドレンズパレスではいろいろなこのようなクラスが開講されていました。(5'00) 私が所属していたのは一番上の直訳すると工作隊科というなんか堅苦しい名前なんですけれども、もうちょっと柔らかい言い回しがあるのかもしれないですけどベトナムも直訳するとそういうことで、語学とかトランペット、楽器、小太鼓などを行うところで、そこで私は所属をしていました。これは今紹介したいいろい

ろなクラスの一例です。左上の伝統の楽器を練習していたりとか右側は子どもなんですけれどすごいショーのような感じで、煌びやかなこともやっていました。テコンドーなんかでも人気で一生懸命練習していたり、これもとってもかわいくて小さい子どもたちがバレエの練習をしていたり、いろんなことをやっているところでした。

それでは、私の要請内容ですが、いろいろな課外活動を教えているところなのでその指導、また催し物の企画、また日本との交流活動を行うなどという要請、それから課外活動の中では日本語クラブというものがありましたので、そこで簡単な日本語の授業や日本の文化の紹介を行うほか、さまざまな課外活動がありますのでそのうちの2つ以上の自分の教えられる得意科目の指導を担当するという要請が書いてありました。催し物では、記念日の行事や協議会や発表会などの企画・運営を職員たちとともに行うということが書いてありました。そのほかにも、日本の諸団体や地方自治体との文化交流活動への支援を行うということもありました。

それでは要請内容と実際の活動の内容を比較して見ますと、実際行った活動は一番主にやっていたのは、日本語クラブの指導にあたりました。それから折り紙クラスはなかったんですけれど協力隊が入ったことでそういうクラスを開設して指導をしたり、ほかの数学のクラスとか科学のクラスとかほかのクラスに飛び入り参加して、クリスマスの時期などはクリスマスのイベントをやったりクリスマス会を開いたりその中で折り紙を折ったりしました。チルドレンズパレスの工作隊科の職員に対しての日本語指導も少し行いました。それからさまざまな活動があったんですけれども、ベトナムには青年団という団体がありまして、その青年団に対して日本語を指導する、チルドレンズパレスの職員ではないんですが一応チルドレンズパレスの職員に行きなさいと言われて行ってやっていました。それから幼稚園の教諭、近隣のハノイにありました幼稚園に行きまして先生方に日本の折り紙と一緒に折って教えてみました。日本語クラブの活動の趣旨ですが、小・中・高校生までが学びに来ていましたので、簡単な日本語や日本文化を紹介するということをしていました。では主に行った指導の項目ですが、こういったことをやりました。主にそんなに難しい、日本語教師ではありませんので、難しい専門的なことはできませんでしたので遊びを交えてゲームをしたりしながら歌を歌ったりして楽しく日本語と触れ合うということを重点においてやりました。主に中学生が1番多かったんですけれども、興味を引いてもらえるような楽しんでもできる書道なり遊びなり折り紙なりをやって、楽しくできるようなことを考えてやっていました。こういったことをやって、右下は南中ソーランというソーラン節をクリスマスのイベントのときに発表しているところです。イベントをやってほしいということをよく言われていましたので、クリスマスのイベントでドラえもん音頭というのを先輩の隊員から教えてもらったので、それを一緒に踊りました。右はこれもドラえもん音頭を踊っているのはひな祭りのときに踊っています。それからいろいろ日本との交流の機会も多く、埼玉や千葉県の先生方が下見に来たときには交流会をしたり、JICA ネットを使って埼玉県にいる小学生とインターネットを通じてクイズを

したり歌を歌いあったりしての交流会もしました。それから左側は、静岡県から高校生がスタディツアーでやってきまして、そこでも交流をチルドレンズパレスの日本語クラブの生徒と一緒に南中ソーラン節や高校生がマツケンサンバを教えてくれたので一緒に踊っているところです。右は節分の会などをやっています。それからチルドレンズパレス以外でも活動を少ししてまして、平和村という枯葉剤の被害児がいろいろ学んだりする施設、SOS 村という全国にありますけれども児童養護施設、菩提寺というのは普通のお寺なんです、親のいない子などを預かっていたお寺に行って、日本語や日本の歌を指導したり子どもたちと遊んだりということをしました。障害者の訓練施設というのは、これも枯葉剤の被害で体が不自由な人たちがいろいろ職業訓練、アクセサリーなどを作って売っている場所だったんですけども、そういうところに行って歩けない人たちのお手伝い、歩行訓練のお手伝いなどもしました。ハノイの近隣にありましたバクザン省というところに同期の現職参加の教員が 3 人いたんですけども、そのうちの 1 つの学校のドンロ 2 小学校というところで何回か図工の授業をさせていただきました。平和村の様子はこんな感じで、楽しく遊んだりすることをしました。SOS 村も、これは家族が 10 人くらいいるんですが、皆さん本当の親はみんな違うんですけども、ひとつの家で家族のように住んでいるというところに行って、一緒に遊んだり折り紙したりしました。ここは菩提寺というお寺ですが、ここも親がいない子どもたちが尼さんに育てられているんですが、そこにいてお絵かきしたりとか日本語を勉強したいという高校生がいましたので教えたりしていました。これはやはり枯葉剤による障害のある子どもたちがアクセサリーを作ったものを売って収益を得ているようなところでしたが、そこに行って歩行訓練のお手伝いなどをちょっとさせていただきました。

私は現在図工の専科、東京都は図工の専科があるんですけども、図工の専科でありましたので図工の授業をしてみたいということがありまして、小学校に行って図工を教えました。これはホイヤン祭りという、中部にホイヤンという場所があって、そこで JOCV が、JOCV だけではないんですが、いろんな団体が集まってお祭りを企画したイベントです。日本の方から子どもたちや日本の協力者に 2500、5000 羽の半分くらいの折鶴を折ってもらって、ホイヤンに送ってもらって当日ホイヤンのほうで半分くらい、2500 羽くらいを折ってこのように右のように貼り付けました。これはホイヤン祭りで小学校の教員とか青少年活動とか教育系に関する教育分科会という分科会を設けまして、そのメンバーとともに行った活動です。右のようなベトナム人と日本人の人が握手をしているような絵が完成しました。これはベトナムの小学校 5 年生の教科書にありました、詩をもとに、もしも魔法が使えたらという詩がベトナム語の教科書にありましてそれを読んでみて、じゃあベトナムの子どもたちはどんなことをしたいんだろうか、もしも魔法が使えたらどういうことをしたいのかということを経験に描いてもらいました。自分が尋ねていたところのいくつかのところを描いてもらいました。ひとつは小学校 5 年生の女の子の絵ですが、家族全員を幸せにしたいという

絵を描いてくれました。それからチルドレンズパレスの女の子はお金持ちになりたい魔法を使いたいということでした。SOS 村の男の子は優しい仏様になってみんなを助けたいということを描いてくれました。これはなんかとてもじーんと感動してしまっただのですが、小学校 5 年生の男の子が描いてくれた絵は、日本とベトナムの国旗が描いてくれてあるんですけれども、こちらですね、いつまでも平和でありますようにという、これはその学校の校門を描いてあるんですね、その学校は ODA で建てられた学校ですので、日本の国旗のマークが入っていましたのでその辺からこういう絵を描いたんだと思います。

最後に活動を通して感じたことですが、事前に自分が思い描いていた活動とはとっても実際ギャップがありまして、私は図工の教員なのでそういうことをやるものだと思っていたんですけれども、実際はチルドレンズパレスではほとんどそれは、要請内容ではそういうことがやれるようなことが書いてあったのですが、現地に行ってみたらちゃんとした先生がいるのでやる必要はありませんときっぱり言われて、何度もやりたいと言ったんですけれども必要はないと言われてそれはできなかったんですね。自分がいろいろ用意していったりしたこともあったのですが、来てみたら実は違うということもありました。日本語をこんなに一生懸命、文化を紹介するとは思っていませんでしたので、実際はそんな感じでした。とても最初はすごく悩んでいたんですけれども、結果として考えてみればチルドレンズパレスで日本語を教えられたことも普段ではできないことですのでいい経験でしたし、配属先以外のところでもいろんな人たちと出会うことができたのでそういったこともよかったのではないかなと今では思います。それから自分が絵を教えたい、チルドレンズパレスで絵を教えたいとか自分のやりたいことあったんですけれども向こうは必要ないと言われてまして、そういったことも含め、自分がやりたいことを相手側に押し付けるのではなくて、むこうが必要としているということを考えてその中でできることをやった方がいいのではないかなと思うようになりました。それから 1 年 9 ヶ月ベトナムで生活してみて帰ってきて、今の日本の社会に欠けている点など生活の面でなどを感じました。日本にいては 1 年 9 ヶ月間では同じ期間日本にいてはわからなかったことなので、協力隊に参加で着てよかったのではないかなと思います。それから、たくさんの任国で知り合った人たちの暮らしがこれからも幸せであってほしいと思います。また、向こうの人たちもこちら側のことをそういうふうに思ってくれているのではないかなと思います。協力隊のよいところは、そういうような関係をお互いに気づけるところが魅力なのではないかと思います。それではまとまらず拙い発表でありましたが、ありがとうございました。終わりにさせていただきます。